

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピーテラス足利西第2教室			
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 4日		～	令和7年 11月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 2日		～	令和7年 12月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 6日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・活動プログラムが固定化しないよう、子どもたちの興味を取り入れながら柔軟に対応している。	・日々のトレーニングでは、机上学習にとらわれず、遊びの要素を取り入れた工夫を行い、子どもたちが「やってみたい！」と思えるような楽しい環境づくりを心がけています。 ・さらに、一人ひとりの「できた!」「楽しい!」「自分が活躍できた!」という実感を大切に、個々の特性に合わせたアプローチで、自信につながる関わりを行っています。 ・学びのスタイルも、個別学習と小集団でのグループワークを組み合わせることで、子どもたちの課題や成長に応じた柔軟な支援を行っています。	子どもが興味を持ちやすい遊びの形に工夫し、楽しみながら自然に必要な力を身につけられるようなトレーニング方法を模索し、自己研鑽に努めていく。
2	・子どもが自ら選択・決定する経験を積めるよう、選択肢の提示や環境構成を工夫し、主体性を育む支援を意識している。	・日々の関わりの中で子どもの反応を丁寧に観察し、主体性を引き出すための意図的な支援を心がけている。（おやつや活動内容を2～3種類提示し子ども自身に選択してもらう） ・日々の活動の中で「どうしたい?」と問いかけ、子どもの意見を尊重する姿勢を大切にしている。	子どもがより主体的に選択・決定できるよう、日々の関わりの中で子どもの興味や発達段階に応じた選択肢を見直し、環境構成や声かけの工夫を継続的に行っていく。また、子どもの選択の背景にある思いや意図を丁寧にくみ取ることで、より深い自己決定の力を育む支援の質の向上に努めていく。
3	・利用児童の引き渡し時、当日の様子や変化について報告することで常に双方の情報共有ができる。	家庭や学校での様子を情報共有することで、支援内容に反映することができる。利用児童の些細な変化に即時対応できる。	知りえた情報を職員間で共有し、支援の質の向上につなげていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者間のつながりを深める場の提供が課題となっている	保護者同士の関係構築を促す仕組みや場づくりが未整備である	保護者の声を取り入れた交流イベントの企画を通じて、交流できる機会を検討していく。
2	地域住民との関わりを深める取り組みが十分に行えておらず、地域に開かれた運営体制の構築が今後の課題となっている。	行事やイベントの企画・運営に必要な人手や時間の確保が難しい。	負担の少ない形で実施できるかどうかを職員間で話し合いを行い検討していく。
3	放課後児童クラブや児童館、地域の方たちとの交流が少ない（近隣の施設で職業体験や公園で地域の子どもたちとの関わりはある）	放課後児童クラブの先生たちとは学校の懇談会でやり取りする機会はあるが、事業所のイベントがメインとなっている為、調整がつきにくい。	合同イベントや地域のイベント等に参加できる機会を作っていく。